

「豪雨災害に関する意識」についてのアンケート集計結果

調査時期：平成24年2月

対象者：県政モニター 350人

回答数：284人（回収率81.1%）

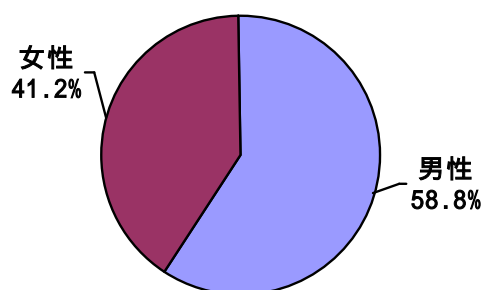
担当課：土木交通部 流域政策局 流域治水政策室

調査目的：県では、どのような洪水にあっても、“人命が失われること”や“生活再建が困難となる被害”を避けることを目的に、これまでの「川の中の対策（河川整備やダム建設など）」に加えて、「川の外の対策」を県民の皆さんと協働で実施していく「流域治水政策」を推進しているところです。

県民の皆さんの豪雨災害に関する意識等について把握し、今後の施策検討の参考とする目的でアンケート調査を実施しました。

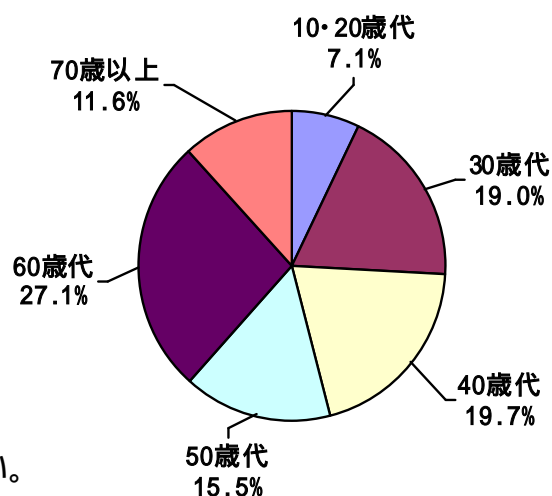
問1 あなたの性別を教えてください。

項目	人数(人)	割合(%)
男性	167	58.8
女性	117	41.2
合計	284	100



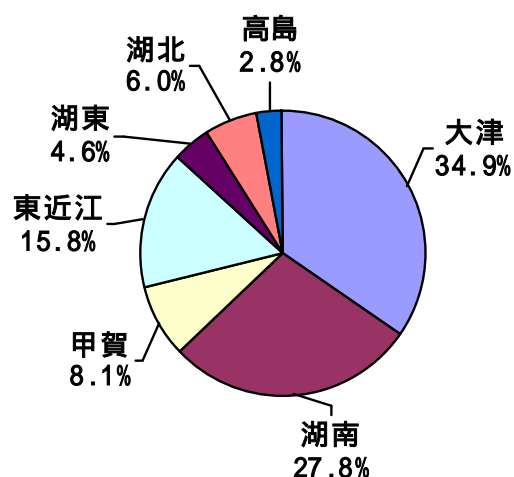
問2 あなたの年齢を教えてください。

項目	人数(人)	割合(%)
10・20歳代	20	7.1
30歳代	54	19.0
40歳代	56	19.7
50歳代	44	15.5
60歳代	77	27.1
70歳以上	33	11.6
合計	284	100



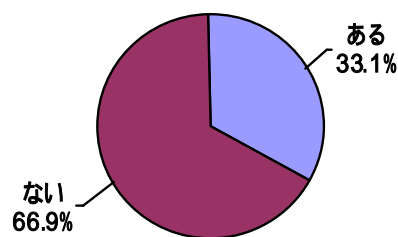
問3 あなたのお住まいの地域を教えてください。

項目	人数(人)	割合(%)
大津地域	99	34.9
湖南地域	79	27.8
甲賀地域	23	8.1
東近江地域	45	15.8
湖東地域	13	4.6
湖北地域	17	6.0
高島地域	8	2.8
合計	284	100



問4 あなたは過去に豪雨(台風を含む)によって被害を受けたり、危険を感じたりしたことはありますか。

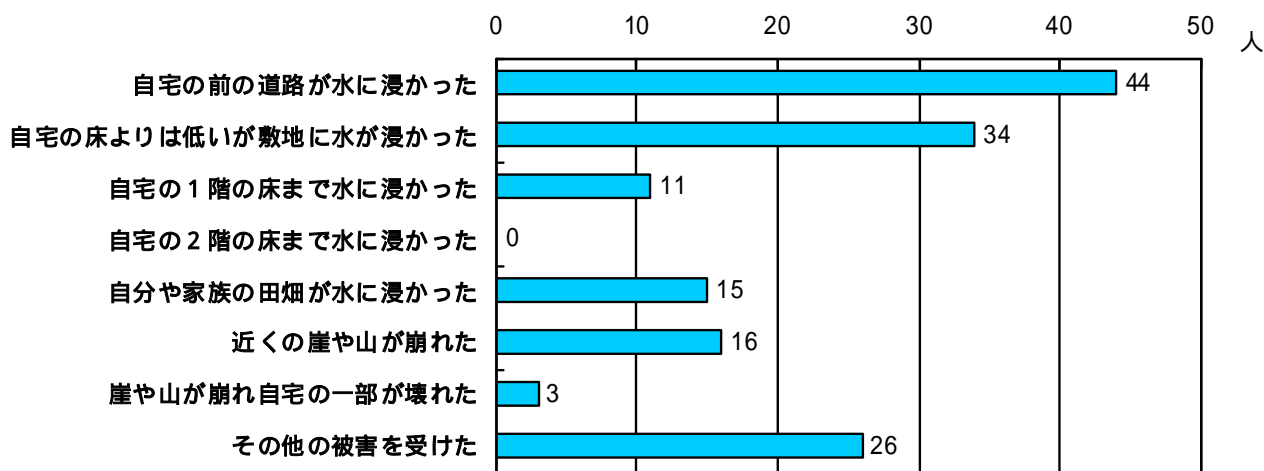
項目	人数(人)	割合(%)
ある	94	33.1
ない	190	66.9
合計	284	100



問5 問4で「ある」と回答された方にお聞きします。
その時の状況はどのようなものでしたか。(はいくつでも)

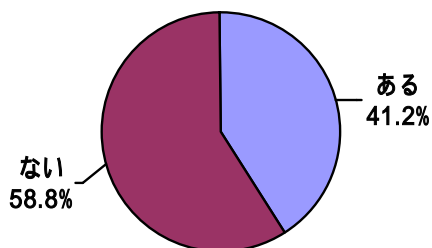
項目	人数(人)	割合(%)
1. 自宅の前の道路が水に浸かった	44	46.8
2. 自宅の床よりは低いが、敷地に水が浸かった	34	36.2
3. 自宅の1階の床まで水に浸かった	11	11.7
4. 自宅の2階の床まで水に浸かった	0	0.0
5. 自分や家族の田畑が水に浸かった	15	16.0
6. 近くの崖や山が崩れた	16	17.0
7. 崖や山が崩れ自宅の一部が壊れた	3	3.2
8. その他の被害を受けた	26	27.7

割合については、回答者数(94人)を母数として算出



問6 あなたは今住んでおられる地域で起きた過去の自然災害(被害)の話を、人から聞かれたことはありますか。

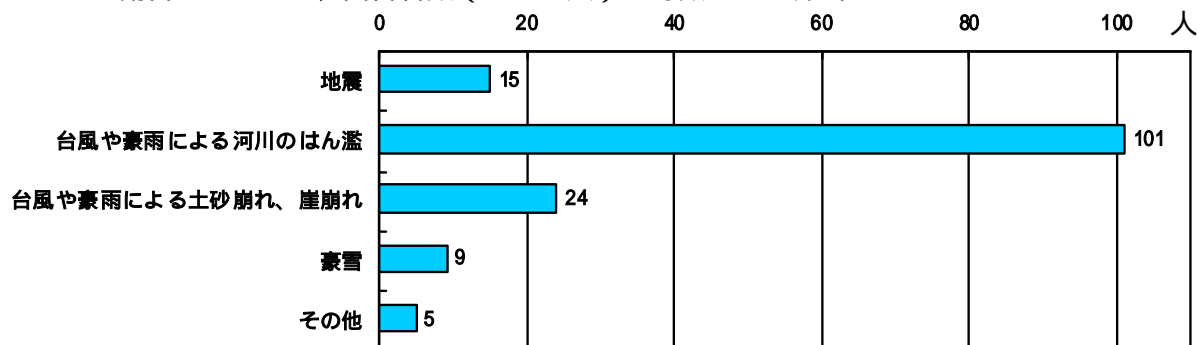
項目	人数(人)	割合(%)
ある	117	41.2
ない	167	58.8
合計	284	100



問7 問6で「ある」と回答された方にお聞きします。
それはどのような自然災害でしたか。(はいくつでも)

項目	人数(人)	割合(%)
1.地震	15	12.8
2.台風や豪雨による河川のはん濫	101	86.3
3.台風や豪雨による土砂崩れ、崖崩れ	24	20.5
4.豪雪	9	7.7
5.その他	5	4.3

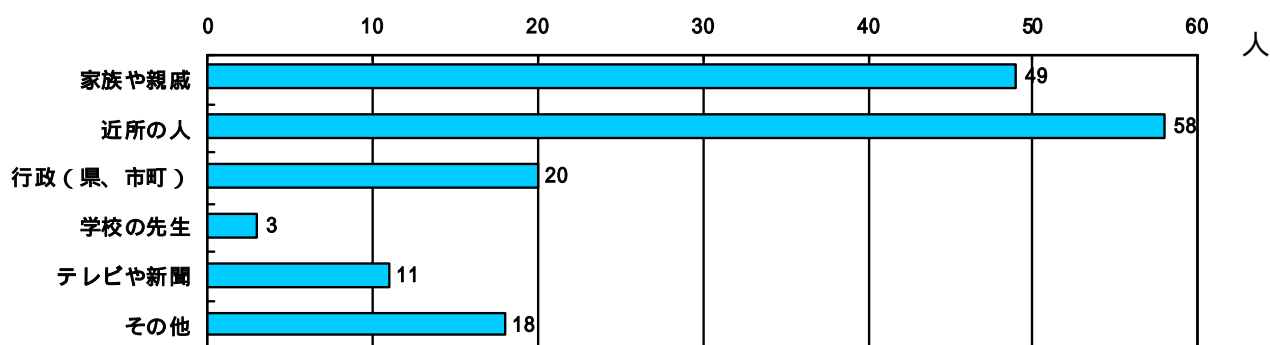
割合については、回答者数(117人)を母数として算出



問8 問6で「ある」と回答された方にお聞きします。
それは誰から聞かれた話ですか。(はいくつでも)

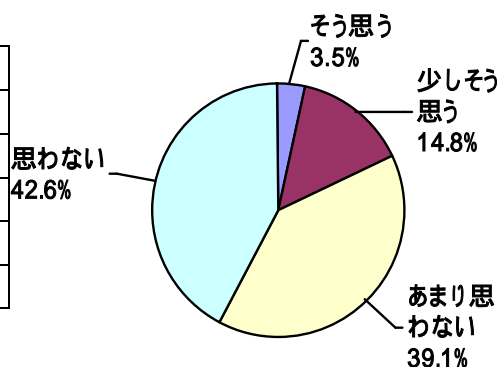
項目	人数(人)	割合(%)
1.家族や親戚	49	41.9
2.近所の人	58	49.6
3.行政(県、市町)	20	17.1
4.学校の先生	3	2.6
5.テレビや新聞	11	9.4
6.その他	18	15.4

割合については、回答者数(117人)を母数として算出



問9 あなたは、今お住まいの家が今後10年以内に洪水による被害を受けると思われますか。

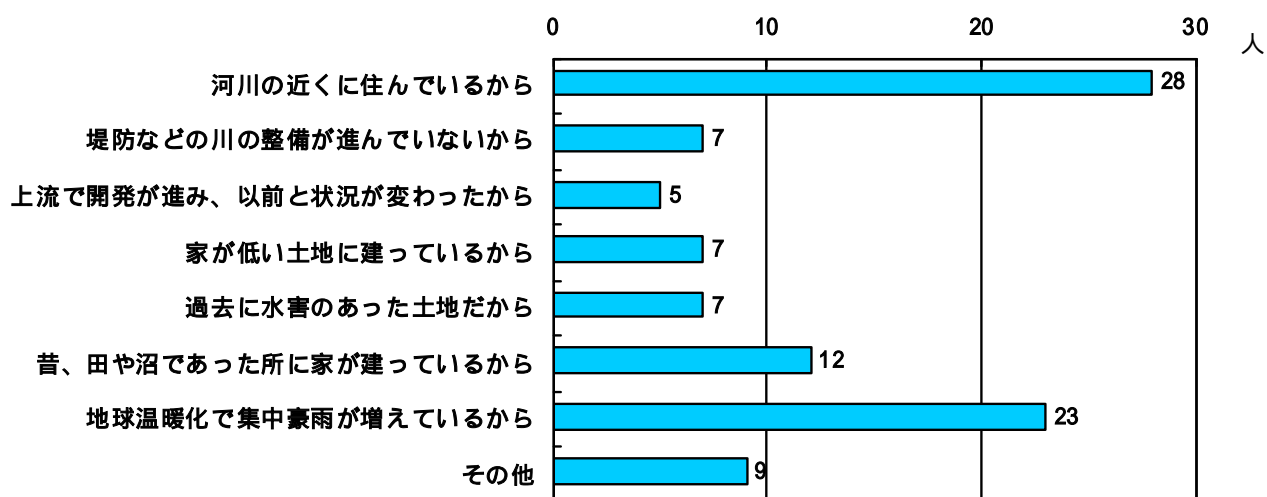
項目	人数(人)	割合(%)
1. そう思う	10	3.5
2. 少しそう思う	42	14.8
3. あまり思わない	111	39.1
4. 思わない	121	42.6
合計	284	100



問10 問9で「そう思う」「少しそう思う」と回答された方にお聞きします。それはどのような理由からですか。(はいくつでも)

項目	人数(人)	割合(%)
1. 河川の近くに住んでいるから	28	53.8
2. 堤防などの川の整備が進んでいないから	7	13.5
3. 上流で開発が進み、以前と状況が変わったから	5	9.6
4. 家が低い土地に建っているから	7	13.5
5. 過去に水害のあった土地だから	7	13.5
6. 昔、田や沼であった所に家が建っているから	12	23.1
7. 地球温暖化で集中豪雨が増えているから	23	44.2
8. その他	9	17.3

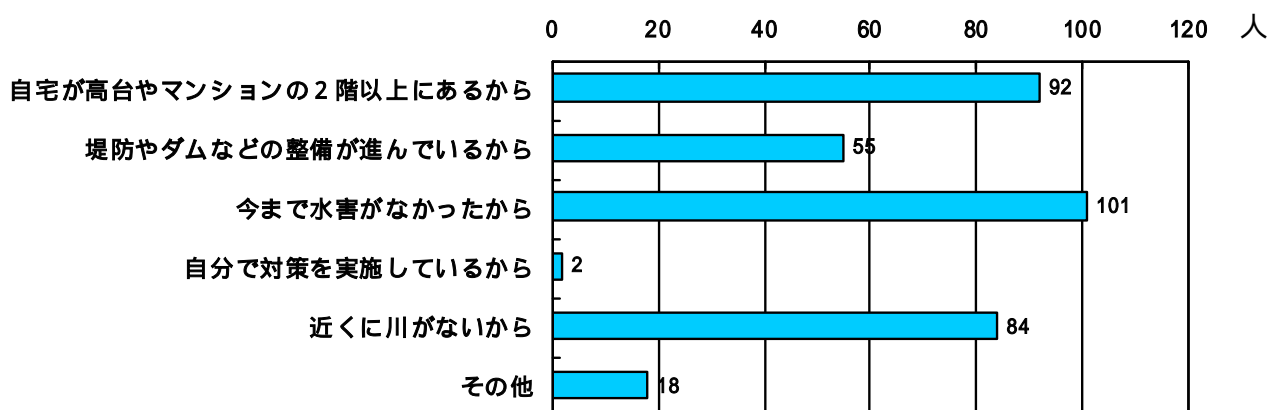
割合については、回答者数(52人)を母数として算出



問11 問9で「あまり思わない」「思わない」と回答された方にお聞きします。
 それはどのような理由からですか。(はいくつでも)

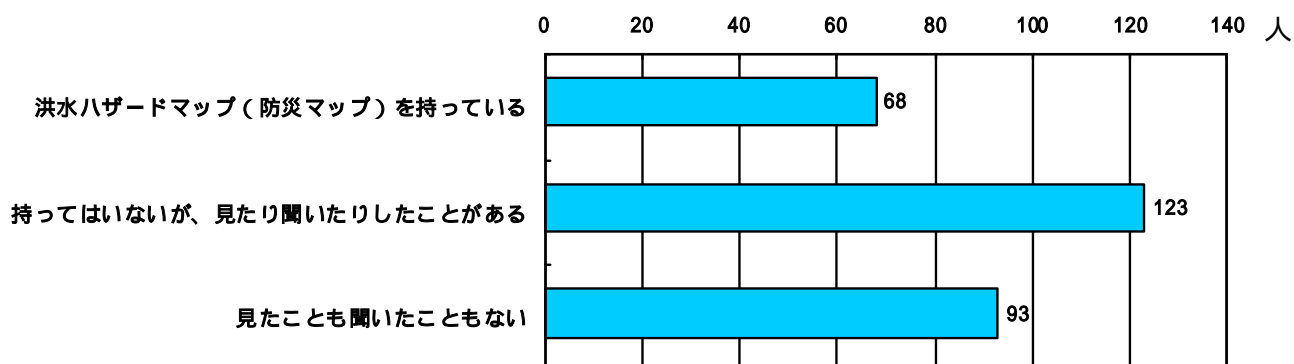
項目	人数(人)	割合(%)
1. 自宅が高台やマンションの2階以上にあるから	92	39.7
2. 堤防やダムなどの整備が進んでいるから	55	23.7
3. 今まで水害がなかったから	101	43.5
4. 自分で対策を実施しているから	2	0.9
5. 近くに川がないから	84	36.2
6. その他	18	7.8

割合については、回答者数(232人)を母数として算出



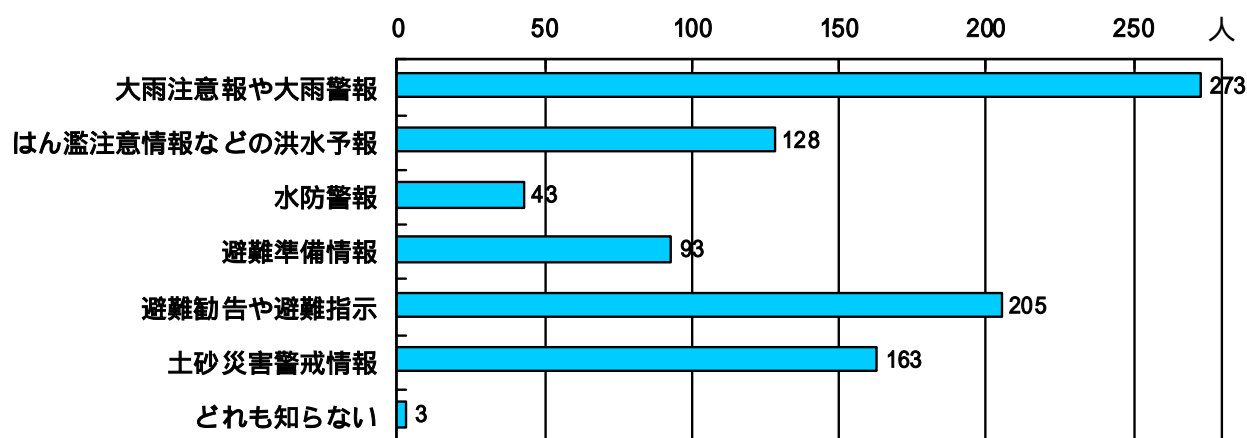
問10 浸水が予想される区域を示すものとして、「洪水ハザードマップ(防災マップ)」がありますが、あなたはこのような地図を見たり、聞いたりしたことがありますか。

項目	人数(人)	割合(%)
1. 洪水ハザードマップ(防災マップ)を持っている	68	23.9
2. 持ってはいないが、見たり聞いたりしたことがある	123	43.3
3. 見たことも聞いたこともない	93	32.8
合計	284	100



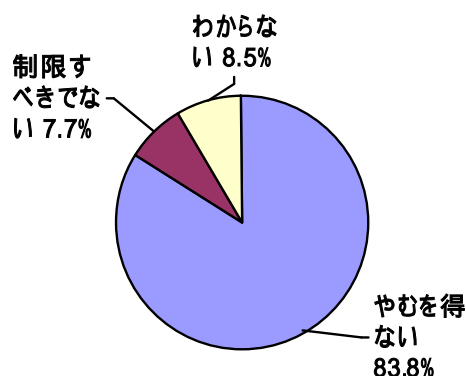
問11 水害や土砂災害の発生する危険性が高くなった時に出る情報のうち、あなたが知っているものすべてに をしてください。

項目	人数(人)	割合(%)
1.大雨注意報や大雨警報	273	96.1
2.はん濫注意情報(洪水注意報)などの洪水予報	128	45.1
3.水防警報	43	15.1
4.避難準備情報	93	32.7
5.避難勧告や避難指示	205	72.2
6.土砂災害警戒情報	163	57.4
7.どれも知らない	3	1.1



問12 水害による被害をできるだけ少なくする方法として、低地に建物を建設しないよう制限することが考えられますが、あなたはこのような土地の利用制限についてどう思われますか。

項目	人数(人)	割合(%)
1.被害を少なくするための制限なら、やむを得ない	238	83.8
2.制限はすべきでない	22	7.7
3.わからない	24	8.5
合計	284	100

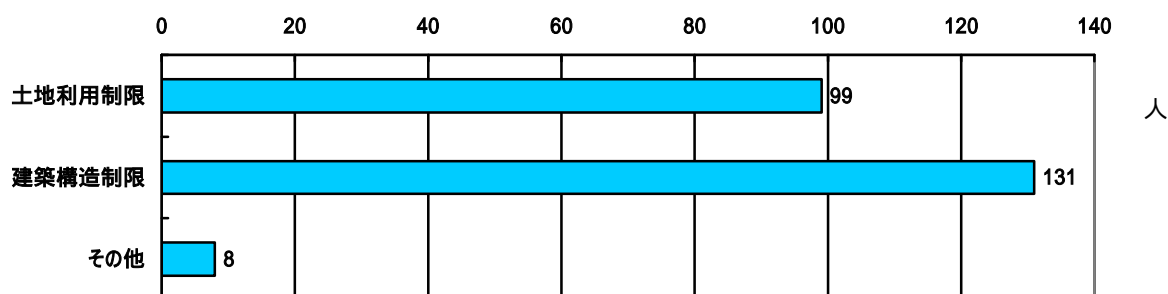


問13 問14で「被害を少なくするための制限なら、やむを得ない」と回答された方にお聞きします。

土地利用制限の方法は、どうしたらよいと思いますか。

この中からあなたの考えに最も近いものを選んでください。

項目	人数(人)	割合(%)
1. 水害の危険性に応じて土地利用を制限し、浸水の危険性が高い場所には住まないような制度を作る	99	41.6
2. 水害の危険性に応じて建築の構造を制限し、万一浸水したとしても被害が少なくなるような制度を作る	131	55.0
3. その他	8	3.4
合計	238	100

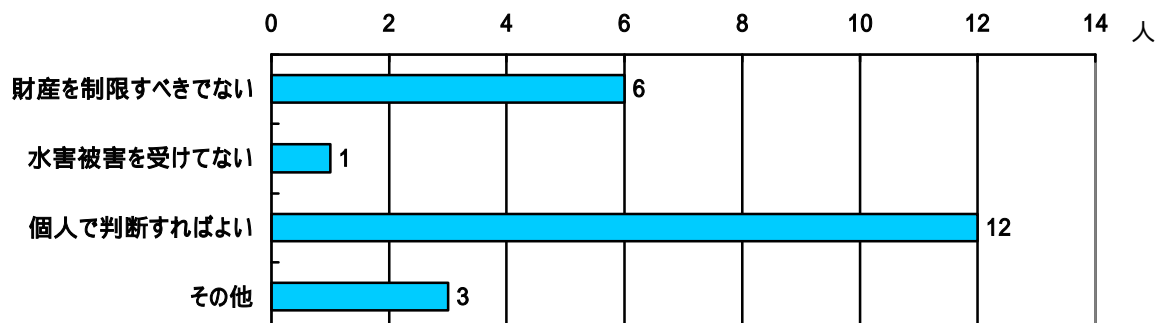


問14 問14で「規制はすべきではない」と回答された方にお聞きします。

そのように思われる理由はなんですか。

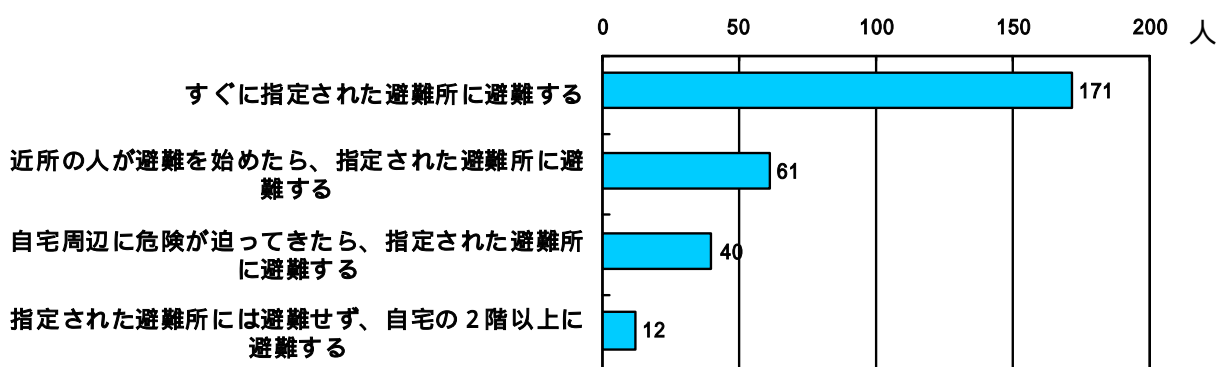
この中からあなたの考えに最も近いものを選んでください。

項目	人数(人)	割合(%)
1. 個人の財産を制限すべきでないから	6	27.3
2. 近年水害被害を受けていないから	1	4.5
3. 水害の危険性を公表し、住むかどうかは個人で判断すればよいから	12	54.6
4. その他	3	13.6
合計	22	100



問15 水害や土砂災害の危険性が高くなり、市町から避難勧告が出された場合、あなたはどのような行動をとると思われますか。
この中からあなたの考えに最も近いものを選んでください。

項目	人数(人)	割合(%)
1. すぐに指定された避難所に避難する	171	60.2
2. 近所の人が始めたなら、指定された避難所に避難する	61	21.5
3. 自宅の周辺に危険が迫ってきたら、指定された避難所に避難する	40	14.1
4. 指定された避難所には避難せず、自宅の2階以上に避難する	12	4.2
合計	284	100

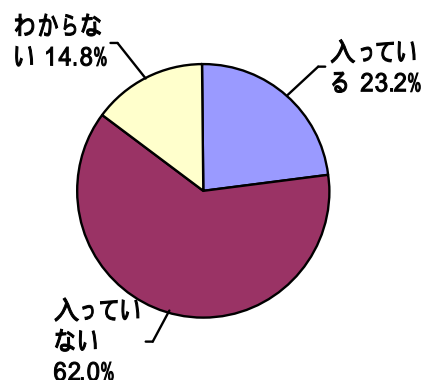


指定された避難所には避難せず、自宅の2階以上に避難する理由

- ・避難所の場所が安全とは考えられない。
- ・避難所がやや遠く、荒天時の移動はかえって危険だと考えるため。
- ・避難所への経路が危険だと思われるため。
- ・高層階のマンションに住んでいるので避難所まで行くより自宅が安全だから。
- ・今まで危険性が無かったので避難の必要性が考えられない。

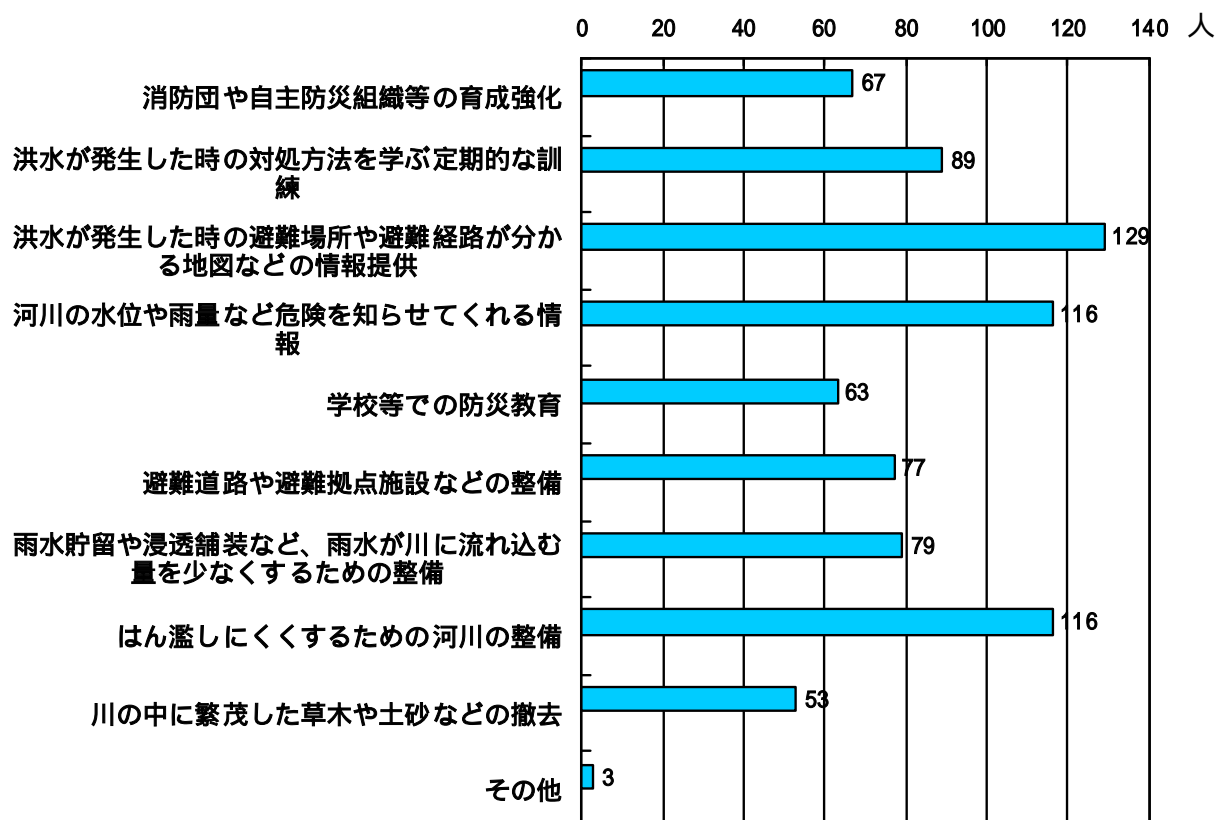
問16 あなたは水害や土砂災害に備えた保険（住宅総合保険等）に入られていますか。

項目	人数(人)	割合(%)
1. 入っている	66	23.2
2. 入っていない	176	62.0
3. わからない	42	14.8
合計	284	100



問17 洪水から命や財産を守るため、あなたは県や市町の行政に対してどのような取り組みを望まれますか。
重視して進めるべきだと考えるものを3つ選んでください。

項目	人数(人)	割合(%)
1. 消防団や自主防災組織等の育成強化	67	23.6
2. 洪水が発生した時の対処方法を学ぶ定期的な訓練	89	31.3
3. 洪水が発生した時の避難場所や避難経路が分かる地図などの情報提供	129	45.4
4. 河川の水位や雨量など危険を知らせてくれる情報	116	40.8
5. 学校等での防災教育	63	22.2
6. 避難道路や避難拠点施設などの整備	77	27.1
7. 雨水貯留や浸透舗装など、雨水が川に流れ込む量を少なくするための整備	79	27.8
8. はん濫しにくくするための河川の整備	116	40.8
9. 川の中に繁茂した草木や土砂などの撤去	53	18.7
10. その他	3	1.1



問18 水害や土砂災害の被害を少なくするため、個人や地域ではどのようなことに留意する必要があると思いますか。意見があればお書きください。

(主だった意見)

【個人で留意すること】

- ・子供からお年寄りまで「自分の命は自分で守る」という自覚を持って日頃から災害に備えることが最も大切なこと。
- ・洪水を防ぐ河川の整備が必要だが、その能力を超えて災害が起こりうることもあるからその時の事象・事態に応じた適切な判断で行動できることが大切で、そのためには避難の方法や経路を正しく理解するための訓練が必要。
- ・危険が迫った時、どのように行動するか、シミュレーションしておく必要がある。連絡手段や避難場所、避難時の携帯品など家族で話し合い、落ち着いて行動できるようになることが大切。
- ・自宅の水害リスクをしっかりと把握し、危険を感じたら避難情報を待たず、早めの避難を心掛ける。
- ・ラジオ、テレビ、パソコン等から雨量や河川水位等の情報を収集することが大切。
- ・過去の経験値で避難するのではなく、ベストを尽くすことが大切。

【地域で留意すること】

- ・地域の水害経験を把握し、水害リスクを地域で理解することが必要。
- ・過去の水害実績等から何処まで逃げれば安全が確保できるのかを考え、避難訓練の実施や避難場所を示す標識などの設置を行い、住民意識の向上と速やかに避難行動に移す備えが大切。
- ・自治会や自主防災組織が避難訓練を実施し、災害時要援護者の把握と援護の方法を地域で取り組むことが重要。
- ・自治会の休日に実施されている訓練では、男性の参加が殆どだが、平日に災害が発生したら、訓練のように対応できないので様々な想定での訓練が必要。
- ・避難にあたっては、地域で声をかけ合ってみんなで早く避難することが大事。